



CASEMaker Inc./Corporate Headquarters

1680 Civic Center Drive Santa Clara, CA 95050, U.S.A.

#### **Contact Information:**

CASEMaker US Division E-mail : <u>info@casemaker.com</u> Europe Division E-mail : <u>casemaker.europe@casemaker.com</u> Asia Division E-mail : <u>casemaker.asia@casemaker.com</u>(Taiwan) E-mail : <u>info@casemaker.co.jp</u>(Japan)

www.casemaker.com/support

©Copyright 1995-2003 by Syscom Computer Engineering Co. Document No. 645049-231222/DBM41J-M09052003-dmSQ 発行日:2003-09-05

#### ALL RIGHTS RESERVED.

本書の一部または全部を無断で、再出版、情報検索システムへ保存、その他の形式へ転作することは禁止 されています。

本文には記されていない新しい機能についての説明は、CASEMakerのDBMasterをインストールしてから README.TXTを読んでください。

#### 登録商標

CASEMaker、CASEMakerのロゴは、CASEMaker社の商標または登録商標です。 DBMasterは、Syscom Computer Engineering社の商標または登録商標です。 Microsoft、MS-DOS、Windows、Windows NTは、Microsoft社の商標または登録商標です。 UNIXは、The Open Groupの商標または登録商標です。 ANSIは、American National Standards Institute, Incの商標または登録商標です。

ここで使用されているその他の製品名は、その所有者の商標または登録商標で、情報として記述しているだけです。SQLは、工業用語であって、いかなる企業、企業集団、組織、組織集団の所有物でもありません。

#### 注意事項

本書で記述されるソフトウェアは、ソフトウェアと共に提供される使用許諾書に基づきます。

保証については、ご利用の販売店にお問い合わせ下さい。販売店は、特定用途への本コンピュータ製品の 商品性や適合性について、代表または保証しません。販売店は、突然の衝撃、過度の熱、冷気、湿度等の 外的な要因による本コンピュータ製品へ生じたいかなる損害に対しても責任を負いません。不正な電圧や 不適合なハードウェアやソフトウェアによってもたらされた損失や損害も同様です。

本書の記載情報は、その内容について十分精査していますが、その誤りについて責任を負うものではあり ません。本書は、事前の通知無く変更することがあります。

# 目次

1	はじ	こめに	1-1
	1.1	その他のマニュアル	1-3
	1.2	字体の規則	1-4
2	dm	SQLについて	2-1
		タイトル・バー	
		メニュー・バー	
		ツール・バー	
		コマンド入力エリア	
		ステータス・バー	
3	dm	SQLの操作	3-1
	3.1	データベースの操作	3-1
		データベースに接続する	
		データベースを切断する	
		データベースを全て切断する	
		接続を表示する	
		スクリプトを実行する	
		トランザクションをコミットする	
		トランザクションをロールバックする	

	コマンドを中止する	
	フェッチを中止する	
	スクリプトを中止する	
	表の一覧	
	コマンド履歴を閲覧する	
3.2	テキストの編集	3-8
	切り取り	
	コピー	
	貼り付け	
	削除	
	編集を元に戻す	
	全てのテキストを選択	
	全てのテキストを削除	
3.3	コマンド入力エリアのユーザー設定	3-10
	高速検索機能を使う	
	表示フォントを変更する	
	表示カラー	
	バックグラウンド通知	
3.4	環境変数を設定する	3-16
	自動コミット	
	トランザクション末尾	
	ログイン・タイムアウト	
	ロック・タイムアウト	
	フェッチ	
	ライン幅	
	BLOBの表示	
	履歴	
	ファイル出力	
	エコー	
	ワーキング・ディレクトリ	

	4.2	コマンド・メニュー 表示メニュー 設定メニュー ヘルプ・メニュー <b>ツール・バー・コマンド</b>	4-4 4-5 4-5 4-7 4-8
		コマンド・メニュー 表示メニュー 設定メニュー ヘルプ・メニュー	4-4 4-5 4-5 4-7
		コマンド・メニュー 表示メニュー 設定メニュー	4-4 4-5 4-5
		コマンド・メニュー 表示メニュー	4-4 4-5
		コマンド・メニュー	4-4
		編集メニュー	4-3
		データベース・メニュー	4-1
	4.1	プルダウン・メニュー・コマンド	4-1
4	メニ	ューとツール・バー	4-1
		SYSINFOクリアを設定する	3-28
		フラッシュを設定する	3-28
		拡張子名'your_own_extension_name'を設定する	3-27
		データベース・モードを設定する	3-27
		データのバックアップ・モードを設定する	3-27
		ブラウズのモードを設定する	3-27
		BLOBバックアップのモードを設定する	3-27
		バックアップのモードを設定する	3-26
	3.5	高度な設定コマンド	3-26
		設定を保存する	3-26
		設定を表示する	3-26

# はじめに

dmSQLユーザーズガイドへようこそ。DBMasterは、強力かつ柔軟なSQLデ ータベース管理システム(DBMS)です。会話型構造の問い合わせ言語 (SQL)、Microsoftのオープンデータベース結合(ODBC)互換インター フェース、およびC言語対応組込みSQL(ESQL/C)をサポートします。唯 ーの公開アーキテクチャーであるODBCインターフェースは、多種多様な プログラミングツールを使用して顧客アプリケーションを構築し、既存の ODBC適合アプリケーションを用いてデータベースに問い合わせることを 可能にします。

DBMasterは、単一ユーザーの個人データベースから、企業全体に分散する データベースまでに容易にスケール化することができます。どのようなデ ータベース構成を選択しても、重要データの安全性は、DBMasterのセキュ リティ、整合性、信頼性の先進的機能によって確実に保証されます。広範 なクロス-プラットフォームのサポートは、現在あるハードウェアの性能 を高め、需要の変化に応じてより強力なハードウェアに拡大し、グレード アップすることを可能にします。

DBMasterは、優れたマルチメディア処理機能を提供し、あらゆるタイプの マルチメディアデータの保存、検索、操作を可能にします。バイナリラー ジオブジェクト (BLOB) は、DBMasterの先進的セキュリティと損傷リカ バリ機構を全面的に利用して、マルチメディアデータの整合性を確実にし ます。ファイルオブジェクト (FO) は、マルチメディアデータを管理す る一方で、既存のアプリケーションで各ファイルを編集できる機能を保持 します。

本書は、dmSQLの基本操作を中心に、データベースの管理方法を説明しま す。対象者は、DBMasterのデータベース設計者と管理者です。リレーショ ナル・データベースについての多少の理解があるものの、DBMasterに不慣 れなユーザーにとって、多いに役立つものと思います。ユーザーは、 WindowsやUNIX環境のオペレーティング・システムに関する若干の知識 が必要です。一方、経験豊かなユーザーにもご利用頂けます。

本書は、dmSQLでデータベースを保守する際に使う様々なコマンドとプロ シージャを説明します。本書は、Windows NTとWindows 98環境対応の DBMaster用に作成されていますが、UNIXプラットフォーム上でもすべて の関数を実行することができます。全編を通じてサンプル・データベース のスクリーン・ショットを掲載して、よりわかりやすく説明します。

# 1.1 その他のマニュアル

DBMasterには、本マニュアル以外にも多くのユーザーガイドや参照編があります。特定のテーマについての詳細は、以下の書籍を参照して下さい。

- DBMasterの能力と機能性についての概要は、「DBMaster入門編」を参 照して下さい。
- DBMasterの設計、管理、保守についての詳細は、「データベース管理 者参照編」をご覧下さい。
- DBMasterの管理についての詳細は、「JServer Managerユーザーガイ ド」を参照して下さい。
- DBMasterの環境設定についての詳細は、「JConfiguration Tool参照編」 をご覧下さい。
- DBMasterの機能についての詳細は、「JDBA Toolユーザーガイド」を 参照して下さい。
- *DBMasterで採用しているSQL言語についての詳細は、*「SQL文と関数 参照編」*を参照して下さい。*
- ESQLプログラムについての詳細は、「ESQL/Cプログラマー参照編」 をご覧下さい。
- ODBCプログラムについての詳細は、「ODBCプログラマー参照編」 をご覧下さい。
- エラーと警告メッセージについての詳細は、「エラー・メッセージ参照編」をご覧下さい。
- ネイティブDCI APIについての詳細は、「DCI ユーザーガイド」を参照して下さい。

# 1.2 字体の規則

本書は、標準の字体規則を使用しているので、簡単かつ明確に読むことが できます。

斜体 斜体は、ユーザー名や表名のような特定の情報を表します。斜体の文字そのものを入力せず、実際に使用する名前をそこに置き換えてください。斜体は、新しく登場した用語や文字を強調する場合にも使用します。

太字 太字は、ファイル名、データベース名、表名、カラム 名、関数名やその他同様なケースに使用します。操作 の手順においてメニューのコマンドを強調する場合に も、使用します。

キーワード 文中で使用するSQL言語のキーワードは、すべて英大 文字で表現します。

小さい 小さい英大文字は、キーボードのキーを示します。2 英大文字 つのキー間のプラス記号(+)は、最初のキーを押した まま次のキーを押すことを示します。キーの間のコン マ(,)は、最初のキーを放してから次のキーを押すこと を示します。

注 重要な情報を意味します。

→ プロシージャ
 → プロシージャ
 → プロシージャ
 → プロシージャ
 ⇒ プロシージャ
 ⇒ プロシージャ
 ⇒ プロシージャ
 ⇒ プロシージャ
 ⇒ プロシージャ
 → プロシー

●例
 解説をよりわかりやすくするために与えられる例です。一般的に画面に表示されるテキストと共に表示されます。

コマンドライン 画面に表示されるテキストを意味します。この書式 は、一般的にdmSQLコマンドやdmconfig.iniファイルの 内容の入/出力を表示します。

# 2 dmSQLについて

この章は、dmSQLの作業スペースのレイアウトと、その数々のコンポーネントについての一般的な情報を解説します。

本書は、dmSQLのWIN32版のために作成しました。UNIXバージョンとの 違いはGUIのみです。dmSQLのUNIXバージョンはコマンドラインで駆動 します。適切なコマンドライン入力を行うために、本書の"コマンド構 文"を参照して下さい。全てのコマンドラインは、dmSQLのWIN32でも UNIXバージョンでも使用することができます。

次の図は、作業スペースの機能を表しています。使用前に、プログラム操 作についての理解を深めることをお勧めします。

メニュー・バーの [表示] には、作業スペースに表示する要素を変更する ことができます。以下の要素を表示、非表示にすることができます。

- 水平スクロールバー
- 垂直スクロールバー
- ツールバー
- ステータスバー



dmSQL作業スペースの各機能については以下で説明します。

### タイトル・バー

タイトル・バーには、プログラム名"dmSQL"、最小化、最大化、閉じるの ボタンが表示されています。

### メニュー・バー

メニュー・バーには、dmSQLのプルダウン・メニューのタイトルが表示さ れています。 各メニューには、関連するコマンドの一覧があります。

### ツール・バー

ツール・バーは、コマンドボタンと一般によく使用する関数のドロップダ ウン・リストボックスのパレットです。

表示メニューのツール・バーで、表示するかどうかを選択することができ ます。

### コマンド入力エリア

コマンド入力エリアは、dmSQL作業スペースのメイン・ウインドウです。 コマンド入力、スクリプト実行、テキスト表示に使用します。

コマンドライン・ヘルプ

コマンド入力エリアで以下のコマンドを入力すると、全てのSQLとdmSQL 文の構文の情報を表示させることができます。

#### ⊃ 例

命令文「insert」で始まる全てのヘルプ入力タイトルを表示する:

```
dmSQL> help insert;
<[INSERT-STATEMENT]>
insert-statement ::=
```

```
INSERT INTO remote-table-name [(column-identifier[,column-
identifier]...)]
```

{ VALUES (insert-value[,insert-value]...)

| DEFAULT VALUES

| select-order-by-statement }

```
<(insert-value)>
```

```
insert-value ::=
```

dynamic-parameter

|literal

|NULL

|expression

<[INSERT]>

INSERT(STRING string exp1, INT start, INT length, STRING string exp2)
Returns a character string where length characters have been
deleted from string\_exp1 beginning at start and where string\_exp2

has been inserted into string expl, beginning at start

comment: if string\_expl is NULL return NULL

if start, length or string exp2 is NULL return string exp1

if start <= 0 or length < 0 return string expl

## ステータス・バー

ステータス・バーは、作業スペースの現在の活動と現在時間を表示しま す。

表示メニューのステータス・バーで、表示するかどうかを指定することが できます。

# 3 dmSQLの操作

この章では、下記のdmSQL関数について解説します。

- データベースの操作
- テキストの編集
- コマンド入力エリアの設定
- 環境変数
- 高度な設定コマンド

# 3.1 データベースの操作

この節は、以下のトピックスを含む、データベースへの接続と切断につい て説明します。

- 接続のチェック
- スクリプトの実行
- トランザクションのコミット
- トランザクションのロールバック
- コマンドの中止
- フェッチの中止
- スクリプトの中止
- 表の一覧

コマンド履歴のレビュー

### データベースに接続する

ローカルPCのシングルユーザー・データベース、あるいはリモートPCで 運用しているクライアント/サーバー・データベースへ接続します。

#### ● データベースへ接続する:

- 1. [データベース] メニューから [接続] を選んでください。
- 2. [接続] ダイアログ・ボックスが表示されます。

接続	2	×
דֿ°−∛^°−ス( <u>D</u> ):	DBSAMPLE	
ユーザー名(∐):	SYSADM	
ル°スワートヾ( <u>P</u> ):		
	□ コーザー名の保存( <u>S</u> )	
	Dヴイン(L) 取消(C)	

- 3. [データベース]のリストボックスから、接続するデータベースを 選択して下さい。
- 4. [**ユーザー名**]の欄に、ユーザー名を入力してください。
- 5. [パスワード]の欄に、パスワードを入力してください。
- 6. 設定を保存する場合は、 [ユーザー名の保存] をクリックして下さい。
- 7. [ログイン]をクリックして、データベースに接続して下さい。
- 8. 次のコマンド構文が表示されます:

connect to db\_name user\_name password ;

### データベースを切断する

このコマンドは、シングル・データベースとの接続を切断する時に使います。

- データベースとの接続を切断する:
  - 1. [データベース] メニューから [切断] を選んでください。
  - 2. 次のコマンド構文が表示されます:

disconnect ;

### データベースを全て切断する

このコマンドはアクティブ・データベースとの接続を切断するために使われます。

- **う** すべてのアクティブ・データベースを切断する:
  - 1. [データベース] メニューから、 [全て切断] を選んでください。
  - 2. 次のコマンド構文が表示されます:

disconnect all ;

### 接続を表示する

現在のセッションの全接続のリストを見ます。

- 接続を表示する:
  - 1. [データベース] メニューから、 [接続の表示] を選択してください。
  - 現在のセッションの全接続リストが、コマンド入力エリアに表示されます。
  - 3. 次のコマンド構文が表示されます:

use ;

### スクリプトを実行する

スクリプトは、SQLコマンドから成るテキスト・ファイルです。

- スクリプトを実行する:
  - [データベース] メニューに、 [スクリプトの実行] を選んでくだ さい。
  - **2. [Open Script File]** ダイアログボックスが表示されます。

Open Script File						?	×
ファイルの場所(I):	🔁 dmSQL	•	£		<u>r</u>		
							-
 コッイルタ(N)・	<b></b>			_		問((の)	
<i><i>yr</i>-1<i>yr</i>-1<i>x</i>-1<i>x</i>.</i>	-					I#I\( <u>U</u> )	4
ファイルの種類(工):	スクリフト ファイル (*.sql)			•	+	キンセル	
	□ 読み取り専用ファイルとして 開く(風)				^	(ルプ(日)	

- 3. スクリプト・ファイルを選択して、 [開く] をクリックしてください。
- 4. 次のコマンド構文が表示されます:

run `script file name' ;

## トランザクションをコミットする

随時、現在のトランザクションの内容をコミットすることができます。 注:自動コミットがONの場合、このコマンドは無視されます。

- トランザクションをコミットする:
  - 1. [データベース] メニューから、 [コミット] を選んでください。
  - 現在の全トランザクションのコミットされていないコマンドが、コ ミットされます。
  - 3. 次のコマンド構文が表示されます:

commit ;

### トランザクションをロールバックする

コミットされていない全コマンドを取り消すことができます。

- トランザクションをロールバックする:
  - 「データベース」メニューから、「ロールバック」を選んでください。
  - 2. コミットされていない全コマンドは、キャンセルされます。
  - 3. 次のコマンド構文が表示されます:

rollback ;

### コマンドを中止する

実行中の全コマンドを中止することができます。

- **コマンドを中止する**
  - 1. [コマンド] メニューから、 [コマンド中止] を選択してください。
  - 2. 現在のコマンドは実行を中止し、新しいコマンドラインが始まりま す。
  - *注: 現在のコマンドがフェッチ、又はスクリプトの実行の場合、コマ ンド中止は利用できません。代わりにフェッチ中止、若しくはス クリプト中止コマンドを使ってください。*

### フェッチを中止する

実行中の全フェッチ・コマンドを中止することができます。

- ⊃ フェッチ・コマンドを中止する:
  - [コマンド]メニューから、[フェッチ中止]を選択してください。
  - 2. 現在のフェッチ・コマンドは、実行を中止します。

3. 新しいコマンドラインが始まります。

### スクリプトを中止する

スクリプトの実行を、実行中に中止することができます。

#### ● 実行中の全スクリプトを中止する:

- [コマンド] メニューから、 [スクリプトの中止] を選んでください。
- 2. 現在のスクリプトの実行コマンドは、実行を中止します。
- **3**. 新しいコマンドを実行始まります。

#### 表の一覧

データベースにあるすべての表の一覧を見ることができます。

- 表をリストにする:
  - 1. [コマンド] メニューから、 [テーブル一覧] を選んでください。
  - 2. アクティブ・データベースにある全ての表の一覧が表示されます。

### コマンド履歴を閲覧する

現在のセッションで作成した全コマンドを、2種類のレベルで見直しま す。

- 履歴スピードメニューは、コマンド簡略リストを表示します。
- コマンド履歴ダイアログ・ボックスには、完全な形式のコマンドがリ ストアップされます。

コマンドを選択すると、どちらの一覧からでもコマンドの位置に移動する ことができます。ツール・バーの履歴コントロールから、2種類の一覧を 見ることができます。

履歴 ▼

- 履歴スピードメニューを見る:
  - 1. 履歴コントロールの下向き矢印ボタン(▼)をクリックして下さい。
  - 2. 履歴スピードメニューが表示されます。



- 3. コマンドを選択して下さい。
- 4. スピードメニューが消えて、カーソルは選択したコマンドに点滅し ます。
- コマンド履歴ダイアログボックスを閲覧する:
  - 1. 履歴コントロールの [履歴] ボタンをクリックして下さい。
  - 2. [コマンド履歴] ダイアログボックスが表示されます。

コマンド履歴						×
connect	to	'DBSAMPLE'	'SYSADM'	·';		
					選択( <u>S</u> )	取消( <u>C</u> )

- 3. コマンドを選択して下さい。
- 4. [選択] をクリックしてください。
- ダイアログボックスが消えて、カーソルはコマンド入力エリアの選択したコマンドに点滅します。
- 6. 次のコマンド構文が表示されます:

history ;

# 3.2 テキストの編集

dmSQLの便利な編集機能を使って、アクティブ・コマンドラインのテキス トを編集します。

### 切り取り

クリップボードに選択したテキストを移動させます。

#### ● カット(切り取り)する:

- 1. カットするテキストを選択して下さい。
- 2. [編集] メニューから、 [切り取り] を選択してください。
- **3**. 選択したテキストは、クリップボードに移動します。

### コピー

クリップボードに選択したテキストをコピーします。

#### ● コピーする:

- 1. コピーするテキストを選択してください。
- 2. [編集] メニューから、 [コピー] を選択してください。
- 3. 選択したテキストは、クリップボードにコピーされます。

### 貼り付け

クリップボードから選択したテキストを貼り付けます。

*注: 貼り付けコマンドは、コピー、切り取りしたテキストが無い場 合、使用することができません。* 

#### ● 貼り付ける:

- 1. テキストを貼り付ける場所に、カーソルを移してください。
- 2. [編集] メニューから、 [貼り付け] を選択してください。
- 3. クリップボードからテキストが貼り付けられます。
- 注: 現在のコマンドラインで右クリックしても、テキストを貼り付け ることができます。dmSQLコマンド入力エリアでテキストを選択 していない場合は、クリップボードの内容が現在のコマンドライ ンに貼り付けられます。

### 削除

選択したテキストを変更するために、アクティブ・コマンドラインを削除 します。

- 削除する:
  - 1. 削除するテキストを選んでください。
  - 2. [編集] メニューから、 [削除] を選択してください。

### 編集を元に戻す

[元に戻す]を使って、最新のコマンド編集を元に戻すことができます。

- Э 編集を元に戻す:
  - 1. [編集] メニューから、 [元に戻す] を選択してください。
  - アクティブ・コマンドラインで実行された最新の編集は、取り消されます。

### 全てのテキストを選択

アクティブ・コマンドラインの全テキストを選択します。

- 全テキストを選択する:
  - 1. [編集] メニューから、 [全て選択] を選択してください。
  - 2. アクティブ・コマンドラインの全テキストが選択されます。

### 全てのテキストを削除

[全てクリア] コマンドは、アクティブ・コマンドラインのテキストを除 く、コマンド入力エリアの全内容を削除します。

#### ⇒ 非アクティブ・コマンドラインの全テキストを削除する:

- 1. [編集] メニューから、 [全てクリア] を選択してください。
- 2. 非アクティブ・コマンドラインの全テキストが削除されます。

# 3.3 コマンド入力エリアのユーザー設定

dmSQLコマンド入力エリアに表示内容をカスタマイズすることができます。

### 高速検索機能を使う

dmSQLの高速検索機能を使わない場合、スクリプトを実行しデータを検索 しているスクリーン出力関数の結果は、dmSQLの処理中にコマンド入力エ リアに表示されます。

#### ● 高速検索機能を使う:

- 1. [表示] メニューから、 [高速処理] を選んでください。
- 2. 機能が利用可能になります。

### 表示フォントを変更する

dmSQLコマンド入力エリアのテキストに、ほとんどの標準フォントを利用 することができます。

- 表示フォントを変更する:
  - 1. [表示] メニューから、 [ユーザー設定] を選択してください。
  - 2. [表示設定] ダイアログボックスが表示されます。

表示設定	×
フォント	
Fixedsys  「表示設定を使用	
前景色( <u>F</u> )	
背景色( <u>B</u> )	
表示フォント( <u>D</u> ) 注意:表示色が256色以下の場合、背景色と選択した色が- 致しない可能性がある。	-
- バックグランド通知	
▼ ウィンドウの再表示 ▼ Beep 1回	
<u>確定(0)</u> 取消( <u>C</u> )	

3. [表示フォント] ボタンをクリックしてください。

フォント		? ×
フォント(E): FixedSys FixedSys 取HGコジックE 取HG創英角ボックりB 取HG創英角ボッフ*体 取Letter Gothic 取Lucida Console 取MingLiU	スタイル(⊻): 標準 ▲ ▲ ●	サイズ( <u>S</u> ): 13 へ キャンセル
	-サンプル	

4. 「フォント」ダイアログ・ボックスが表示されます。

a) [フォント] の欄から、フォントを選択してください。

- b) [スタイル] の欄から、スタイルを選択してください。
- c) **[サイズ]**の欄から、数値を選択するか、入力してください。
- d) 数種の言語をサポートする場合、[書体の種類]の欄から、書 体を選択してください。
- e) **[サンプル]**の欄で、選択したフォントをチェックしてください。
- 5. 選択したフォントを確定する場合は、 [OK] をクリックして下さい。

### 表示カラー

dmSQLコマンド入力エリアのテキストと背景に、ほとんどの標準的な色を 利用することができます。

- ⇒ テキストの色を変更する:
  - 1. [表示] メニューから、 [ユーザー設定] を選択してください。
  - 2. [表示設定] ダイアログ・ボックスが表示されます。

表示設定	×
ーフォント サンフ°ル・	
Fixedsys	□ 表示設定を使用
	前景色( <u>F</u> )
	背景色( <u>B</u> )
表示フォント( <u>D</u> )	
注意:表示色か256色以下の場合、1 致しない可能性がある。	『景色と選択した色か一
▼ ウィンドウの再表示 ▼ Beep 1回	
確	定( <u>0)</u> 取消( <u>C</u> )

- **3**. [前景色] をクリックして下さい。
- 4. [色] ダイアログ・ボックスが表示されます。



5. [基本色] パレットから色を選択、又は [色の作成] をクリックし て下さい。 [色] ダイアログボックスが拡張します。



- 6. 置き換える [作成した色]、又は空の [作成した色] の欄を選択し て下さい。
- 7. 大きいカラー表示ウインドウのカラーの範囲に、十字記号をドラッ グしてください。

- 8. 小さい [色|純色] ウインドウに、選択した色が表示されます。
- 9. 大きいカラー表示の横の明度バーのスライダをドラッグして、選択 した[作成した色]の明度を設定し下さい。
- 10. [色の追加]をクリックして、色の設定を保存して下さい。
- 11. [作成した色]の欄に、色の最終設定が表示されます。
- 12. **[OK]** をクリックしてください。
- 背景カラーを変更する:
  - 1. [表示] メニューから、 [ユーザー設定] を選択してください。
  - 2. [表示設定] ダイアログ・ボックスが表示されます。
  - **3.** [背景色] をクリックして下さい。
  - 4. [色] ダイアログ・ボックスが表示されます。
  - 5. [基本色] パレットから色を選択、又は [色の作成] をクリックし て下さい。
  - 6. [色] ダイアログボックスが拡張します。
  - 7. 置き換える [作成した色]、又は空の [作成した色] の欄を選択し て下さい。
  - 8. 大きいカラー表示ウインドウのカラーの範囲に、十字記号をドラッ グしてください。
  - 9. 小さい [色|純色] ウインドウに、選択した色が表示されます。
  - 10. 大きいカラー表示の横の明度バーのスライダをドラッグして、選択 した作成した色の明度を設定し下さい。
  - 11. [色の追加]をクリックして、色の設定を保存して下さい。
  - 12. [作成した色]の欄に、色の最終設定が表示されます。
  - **13**. **[OK]** *を*クリックしてください。

### バックグラウンド通知

dmSQLが長い時間を要するかもしれないスクリーン出力機能を実行している時に、別の作業を行う場合、dmSQL作業スペースを最小化し、その作業が完了したことを知らせる、バックグラウンド通知を使用することができます。

その機能の初期設定には、警告音と視覚フラッシュ・ウインドウがありま す。

- 注: バックグラウンド通知を作動させるために、dmSQLウインドウを 最小化して下さい。dmSQLのウインドウが他のウインドウの後ろ に隠れる場合や、最小化されていない場合は、通知は行われませ ん。
- ⊃ バックグラウンド通知を変更する:
  - 1. [表示] メニューから、 [ユーザー設定] を選択してください。
  - 2. [表示設定] ダイアログ・ボックスに、初期設定が表示されます。

表示設定	×
- フォント サンプル・	
Fixedsys	□ 表示設定を使用
	前景色( <u>F</u> )
	背景色( <u>B</u> )
表示フォント( <u>D</u> )	
注意:表示色が256色以下の場合、 教しない可能性がある。	皆景色と選択した色が一
- バックグランド通知	
▼ ウィンドウの再表示 ▼ Beep 1回	
確	定( <u>0)</u> 取消( <u>C</u> )

- 3. 希望しないバックグラウンド通知の設定をOFFにしてください。
  - a) 音声の通知だけを希望する場合は、**[画面の再表示]** チェック ボックスをOFFにしてください。

- b) 視覚の通知だけを希望する場合は、 [ビープ1回] チェックボッ クスをOFFにしてください。
- c) 通知を望まない場合は、 [画面の再表示] と [ビープ1回] 両方 のチェックボックスをOFFにしてください。
- 4. **[OK]** をクリックしてください。

# 3.4 環境変数を設定する

dmSQLのコマンド動作の多くが、環境変数によってコントロールされてい ます。設定メニューのコマンドを使って、これらの変数を設定します。以 下のリストは変数の種類とその初期設定を説明します。

環境変数	影響	初期設定
自動コミット	自動的に全トランザクションをコミ ットします。	ON
トランザクショ ン末尾	アプリケーションを終了する時、の 最後のトランザクションのdmSQL操 作を決定します。	アスク
	注:自動コミットがONの場合は無視 されます。	
ログインタイム アウト	dmSQLがデータベースにログインを 試みる時間。	5秒
ロックタイムア ウト	dmSQLがロックされたデータベース オブジェクトにアクセスを試みる時 間	5秒
フェッチ	dmSQLがフェッチ・コマンドでデー タベースから検索する行数	すべて

ライン幅	各行が含む文字数をセット、又はオ フに設定します。オフに設定する と、コマンド入力エリアにライン幅 の限制がなくなりなります。	80
BLOB	BLOBを検索、表示する条件。	表示/印刷
		幅/16バイト
履歴	実行済みコマンドや、dmrecord.sql フ ァイル・エラーの為に失敗したコマ ンドを自動的に記録します。	ON
ファイル出力	全dmSQL出力を自動的に選択したテ キスト・ファイルに出力するように します。	OFF
エコー	結果の表示、又はコマンドとその結 果を表示します。	ON
WorkDir	外部のファイル操作用のワークディ レクトリ。	C:\DBMaster\B IN32
日付	入力と出力の日付フォーマットをセ ットします。	入力: mm/dd/yy 出力: yyyy- mm-dd
時間	入力と出力の時間フォーマットをセ ットします。	入力: hh:mm:ss.fff 出力: hh:mm:ss

## 自動コミット

dmSQLに自動的に全トランザクションをコミットするようにセットします。

● 自動コミットにする:

[設定] メニューの [自動コミット] を [ON] にして下さい。

### トランザクション末尾

トランザクション末尾を設定して、終了コマンドへのdmSQLの対応を決定 します。

注: 自動コミットをセットした場合、この設定は無視されます。

● トランザクションの末尾を設定する:

[設定] メニューから、 [トランザクション末尾] を選んでください。

サブメニュー	終了コマンドへのdmSQLの処理
コマンド	
アボート	現在のトランザクションは、アプリケーション終 了前に、自動的にアボートされます。
コミット	現在のトランザクションは、アプリケーション終 了前に、自動的にコミットされます。
アスク	現在のコマンドラインにプロンプトが表示されま す。アボートする場合は"A"、コミットする場合 は"C"を入力します。

### ログイン・タイムアウト

dmSQLがデータベースにログインを試みる時間を設定します。

- □ ログイン・タイムアウトを設定する:
  - 1. [設定] メニューから、 [ログイン・タイムアウト] を選んでくだ さい。
  - 2. ダイアログボックスが表示されます。

ユーザー ログイン タイムアウトを秒単位に設定	×
ューサット ロク・イン タイムアウトを秒単位に設定	
確定取消	

- 3. タイムアウト時間(秒数)を入力して下さい。
- 4. **[OK]** をクリックして下さい。

### ロック・タイムアウト

ロックされているデータベース・オブジェクトに、dmSQLがアクセスを試 みる時間を設定します。

- □ ロック・タイムアウトを設定する:
  - [設定] メニューから、 [ロック・タイムアウト] を選んで下さい。
  - 2. ダイアログボックスが表示されます。
  - 3. タイムアウト時間(秒数)を入力して下さい。
  - **4**. **[OK]** をクリックして下さい。

### フェッチ

フェッチ・コマンド実行中に、dmSQLがデータベースから検索する行数を 設定します。初期設定では、データベースにある全ての行が検索されま す。

- **□** 一フェッチ当たりのタプル数を設定する:
  - 1. [設定] メニューの [フェッチ] から、 [その他] を選択して下さい。
  - 2. ダイアログボックスが表示されます。

フェッチできるデータの初期値を設定 🗙			
フェッチできるデータの初期値を設定			
1			
確定	取消		
確定	取消		

- 3. 各フェッチ・コマンド実行で検索する行数の初期設定値を入力して 下さい。
- **4**. **[OK]** をクリックして下さい。

### ライン幅

dmSQLのコマンド入力エリアの初期設定の行幅は、80文字です。表示ラインの幅を設定するか、設定をオフにしてください。設定をオフにすると、コマンド入力エリアの幅は、無制限になります。

● ライン幅を設定しない:

[設定] メニューの [ライン幅] から、 [OFF] を選んで下さい。

- ライン幅を変更する:
  - 1. [設定] メニューの [ライン幅] から、 [その他] を選んで下さい。
  - 2. ダイアログが表示されます。

表示行の最大長さを設定	×		
表示行の最大長さを設定			
[ad			
確定 取消			

- 3. 表示行の最大長さを入力して下さい。
- 4. **[OK]** をクリックして下さい。

### **BLOBの表示**

SELECT文にBLOBが含まれる場合、表示オプションを選択します。

- BLOBのサイズの表示する:
  - 1. [設定] メニューの [BLOB] -> [表示] から [サイズ] を選択して 下さい。
  - 2. 次のようなコマンド構文が表示されます。

set blobshow size ;

- BLOBをファイルに保存する:
  - 1. [設定] メニューの [BLOB] の [表示] から [ファイル] を選択し て下さい。
  - 出力のファイル名の接頭語を設定する場合は、[設定]メニューの [BLOB]から、[Pref]を選択して下さい。
  - 出力ファイルの最大数を設定する場合は、[設定]メニューの [BLOB]から、[Rowmax]を選択して下さい
  - 4. 次のようなコマンド構文が表示されます:

```
set blobshow file ;
set blobpref 'your_prefix' ;
set blobrowmax max number ;
```

- 作業スペースにあるBLOBコンテンツを直接表示する:
  - 1. [設定] メニューの [BLOB] の [表示] から、 [印刷] を選択して 下さい。
  - **2**. [設定] メニューの [BLOB] から、 [幅] を選択して下さい。
  - 3. 次のようなコマンド構文が表示されます。

set blobshow print ;

set blobwidth max\_number ;

### 履歴

履歴機能をONにすると、dmSQLは自動的に実行済みのコマンドと dmrecord.sqlファイル・エラーのために失敗したコマンドを記録します。 このファイルは、スクリプトとして使用されます。

注: 履歴の初期設定は、OFFです。

- 爾歴を使う:
  - 1. [設定] メニューの [履歴] から、 [ON] を選択して下さい。
  - 2. 次のようなコマンド構文が表示されます。

set fltrec on;

*注*: **dmrecord.sql**ファイルの完全パスは、履歴サブメニューの"オン" の傍に表示されます。

### ファイル出力

dmSQLは初期設定により、全出力を画面に表示します。dmSQLに選択したテキスト・ファイルに自動的に出力させることも可能です。初期設定では、ファイル出力機能はOFFです。

- 出力先を設定する:
  - 1. [設定] メニューの [ファイル出力] から、 [ファイル名] を選択 して下さい。

L'HING CITO		10 2013	
名前を付けて保存			? ×
保存する場所(I):	🔄 dmSQL 💌	<b>E</b>	
ファイル名( <u>N</u> ):	*.txt		保存( <u>S</u> )
ファイルの種類(工):	Output files (*.txt)	▼	キャンセル

「名前を付けて保存」 ダイアログボックスが表示されます

- 3. [ファイル名の欄] に、出力するファイルの名前を入力して下さい。
- 4. [保存] をクリックして下さい。

エコー

2.

エコーは、コマンドの結果を表示、もしくはコマンドとその結果両方を表 示します。

- Э エコーを使う:
  - 1. [設定] メニューの [エコー] から、 [ON] を選択して下さい。
  - 2. 次のようなコマンド構文が表示されます。

set echo on;

# ワーキング・ディレクトリ

全ての外部ファイル操作を保存するディレクトリを指定します。

- Э ワーキング・ディレクトリを設定する:
  - 1. [設定] メニューから、 [WorkDir] を選択して下さい。

2. ダイアログが表示されます。



- 3. ディレクトリのパスを入力して下さい。
- **4. [OK]** をクリックして下さい。

### 日付と時間のフォーマット

入力と出力用に、適切な日付/時間フォーマットを設定することは重要な ことです。これらのフォーマットが設定されていない場合、dmSQLは、デ ータ入力やフェッチ・コマンドを認識しない可能性があります。次のよう なフォーマットを利用することができます。(where *m*=月数、*mon*=月、*d*= 日、*y*=年、*h*=時間、*m*=分、*s*=秒、*f*=マイクロ秒、*t*=am/pm):

日付	時間
mm/dd/yy	hh:mm:ss.fff
mm-dd-yy	hh:mm:ss
dd/mon/yy	hh:mm
mm/dd/yyyy	hh
mm-dd-yyyy	hh:mm:ss.fff tt
yyyy/mm/dd	hh:mm:ss tt
yyyy-mm-dd	hh:mm tt
dd-mon-yyyy	hh tt
dd.mm.yyyy	tt hh:mm:ss.fff
dd.mm.yyyy	tt hh:mm:ss
dd.mm.yyyy	tt hh:mm
dd.mm.yyyy	tt hh

- *注: 入力フォーマットと出力フォーマットで、異なるフォーマットを* 使用することができます。
- 日付入力フォーマットを設定する:
  - 1. [設定] メニューの [日付] から、 [入力形式] を選択して下さい。
  - 2. サブメニューが表示されます。
  - 3. [日付] フォーマットを選択して下さい。
  - 注: 全てのフォーマットを受け入れる場合は、 [すべて] を選択して 下さい。
- 日付出力フォーマットを設定する:
  - 1. [設定] メニューの [日付] から、 [出力形式] を選択して下さい。
  - 2. サブメニューが表示されます。
  - 3. [日付] フォーマットを選択して下さい
- 時間入力フォーマットを設定する:
  - 1. [設定] メニューの [時間] から、 [入力形式] を選択して下さい。
  - 2. サブメニューが表示されます。
  - 3. [時間] のフォーマットを選択して下さい。
  - 注: 全てのフォーマットを受け入れる場合は、 [すべて] を選択して 下さい。
- 時間出力フォーマットを設定する:
  - 1. [設定] メニューの [時間] から、 [出力形式] を選択して下さい。

- 2. サブメニューが表示されます。
- 3. [時間] のフォーマットを選択して下さい。

### 設定を表示する

現在の環境変数の全設定を表示します。

- ⇒ 設定を表示する:
  - 1. [設定] メニューから、[設定の表示] を選択して下さい。
  - 2. 環境変数の全設定のリストが、 [コマンド入力エリア] に表示され ます。

### 設定を保存する

将来の参照用に、環境変数の設定を保存します。

- ⇒ 設定を保存する:
  - 1. [設定] メニューから、 [設定の保存] を選択して下さい。
  - **2**. この設定は、Windowsのホームディレクトリの*dmsqlenv.ini*ファイル に保存されます。

# 3.5 高度な設定コマンド

この節では、dmSQLのより高度な設定コマンドについて解説します。

## バックアップのモードを設定する

データベースのバックアップ・モードをOn、又はOffに設定します。

dmSQL> SET DATA BACKUP ON;

dmSQL> SET BACKUP OFF;

### BLOBバックアップのモードを設定する

バックアップ実行時の、BLOBデータのバックアップ・モードをOn、又は Offにします。

dmSQL> SET BLOB BACKUP ON;

dmSQL> SET BACKUP OFF;

## ブラウズのモードを設定する

ブラウズ・モードをOn、又はOffに設定します。

dmSQL> SET BROWSE ON;

dmSQL> SET BROWSE OFF;

## データのバックアップ・モードを設定する

バックアップ実行時のデータのバックアップをOn、又はOffにします。

dmSQL> SET DATA BACKUP ON;

dmSQL> SET BLOB BACKUP ON;

dmSQL> SET BACKUP OFF;

## データベース・モードを設定する

データベース操作モードを、シングルユーザー・モードかマルチユーザー・モードに設定します。

dmSQL> set dbmode single;

dmSQL> set dbmode multi;

### 拡張子名'your\_own\_extension\_name'を設定する

システム・ファイル・オブジェクトの拡張子名を設定します。

dmSQL> SET EXTNAME TO your own extension name;

### フラッシュを設定する

ソース・データベースからターゲット・データベースに更新するデータを 同調させます。

dmSQL> SET FLUSH;

### SYSINFOクリアを設定する

SYSINFO表の統計値を、0にリセットします。

dmSQL> SET SYSINFO CLEAR;

# メニューとツール・バー

この章は、dmSQLのプルダウン・メニューとツール・バーにあるコマンド について説明します。

# 4.1 プルダウン・メニュー・コマンド

この節では、dmSQLプルダウン・メニューの各項目について説明します。

### データベース・メニュー

### 接続

Δ

リモート・コンピュータのクライアント/サーバ、若しくはローカル・コ ンピュータのデータベースに接続します。このコマンドを使用すると、接 続ダイアログボックスが表示されます。 接続ダイアログボックスのオプション

オプション	説明
データベース	接続するデータベースを選択します。
ユーザー名	データベースを使用するユーザー名を入力します。
パスワード	必要な場合、アクセスするデータベースのパスワード を入力します。
ユーザー名の 保存	ユーザー名を、データベース・アクセスの初期設定ユ ーザー名として保存します。
ログイン	データベースにログインします。

### 切断

現在のデータベース・セッションを切断します。

### 全て切断

全アクティブ・データベース・セッションを切断します。

### 接続の表示

現在のセッションで使用されている全接続をリストアップします。

### スクリプトの実行

**Open Script File**のダイアログボックスが表示され、スクリプトが実行され ます。

### **OPEN SCRIPT FILEダイアログボックスのオプション**

オプション	説明
ファイルの	開くScript Fileを配置、選択します。
場所	ドロップダウン・リストボックスは、ファイルを含むフ ォルダやボリュームを表示します。
	その下のボックスに、選択したボリュームやフォルダの 一覧が表示されます。
ファイル名	開くファイル名が表示されます。ワイルドカードを含む DOSコマンドを使用します。
ファイルの 種類	ファイルの種類を選択します。初期設定は、すべてのフ ァイルです。
開く	選択したファイルを開きます。

### コミット

現在のトランザクションの全コマンドをコミットします。

ロールバック

現在のトランザクションのコミットされていない全コマンドを取り消しま す。

### 終了

dmSQLを閉じて終了します。

注:

- トランザクション末尾の設定で、自動コミット、アボート、コミットを選択した場合、dmSQLは通知せずに終了します。
- トランザクション末尾の設定で、アスクを選択した場合、現在のト ランザクションのコミット/アボート確認のメニューが表示されま す。

### 編集メニュー

元に戻す

前回のテキスト編集操作を元に戻します。

#### 切り取り

ドキュメントからテキストを取り除き、クリップボードに置きます。

注: テキストが選択されていない時、このコマンドは使用できません。

#### コピー

- クリップボードに選択したテキストをコピーします。
- *注: テキストが選択されていない時、このコマンドは使用できません。*

### 貼り付け

クリップボードから、開いているドキュメントに、コピー又はカットした テキストを貼り付けます。 *注: クリップボードに、カット又はピーしたテキストが無い場合は、 貼り付けコマンドは、利用できません。* 

### 削除

アクティブ・コマンド・ラインから選択したテキストを削除します。

### コマンド・メニュー

### コマンド中止

実行中の全コマンドを取り消します。

*注: 現在のコマンドがフェッチ、又はスクリプトの実行の場合、コマ ンド中止は使用することができません。フェッチ中止あるいはス クリプト中止を利用して下さい。* 

### フェッチ中止

実行の全フェッチ・コマンドを中止することができます。

*注: 現在がフェッチでない場合、フェッチ中止を使うことができません。コマンド中止あるいはスクリプト中止を利用して下さい。* 

#### スクリプト中止

スクリプトの実行中に、中止します。

*注: 現在がスクリプトでない場合、スクリプト中止を使うことができ ません。コマンド中止あるいはフェッチ中止を利用して下さい。* 

#### 表の一覧

アクティブ・データベースに含まれる全ての表をリストアップします。

#### 表示メニュー

#### 高速処理

高速検索機能をONにするかOFFにするかを指定します。コマンドがOFFの 場合、スクリプトを実行しデータを検索している画面出力関数の結果は、 dmSQLの処理中、コマンド入力エリアに表示されます。

### 水平スクロール・バー

水平スクロール・バーを表示させます。水平スクロール・バーが表示され ている場合、メニュー項目の横にチェックマークが表示されます。

#### 垂直スクロールバー

垂直スクロール・バーを表示させます。垂直スクロール バーが表示され ている場合、メニュー項目の横にチェックマークが表示されます。

#### ツール・バー

ツール・バーを表示させます。 ツール・バーが表示されている場合、メ ニュー項目の横にチェックマークが表示されます。

### ステータス・バー

ステータス・バーを表示させます。 ステータス バーが表示されている 時、メニュー項目の横にチェックマークが表示されます。

### 設定メニュー

### 自動コミット

各トランザクションを自動的にコミットします。

### トランザクション末尾

アプリケーション終了時に、最後のトランザクションのdmSQL処理をどう するか決定します。このコマンドを選択すると、以下のサブ・メニューが 表示されます。

サブメニュー	終了コマンドへのdmSQLの処理
コマンド	
アボート	現在のトランザクションは、アプリケーション終 了前に、自動的にアボートされます。
コミット	現在のトランザクションは、アプリケーション終 了前に、自動的にコミットされます。
アスク	現在のコマンドラインにプロンプトが表示されま す。アボートする場合は「A」、コミットする場合 は「C」を入力します。

注: この設定は、自動コミットがONの場合は無視されます。

### ログイン・タイムアウト

dmSQLがデータベースにログインを試みる時間を設定します。

### ロック・タイムアウト

dmSQLがロックされたデータベース・オブジェクトにアクセスを試みる時 間を設定します。

#### フェッチ

dmSQLがフェッチ・コマンドで検索する行数を設定します。初期設定では、データベースの全行が検索されます。

### ライン幅

表示ラインの幅を設定、又は設定をOFFにします。設定をOFFの場合、コ マンド入力エリアのライン幅の制限はありません。

#### BLOB

BLOBデータを表示するためのオプションを設定します:

- サイズ: その内容の代わりにBLOB サイズを表示します。
- ファイル:ファイルにBLOBの内容を保存します。
- 印刷: BLOBの内容をdmSQL作業スペースに表示します。

### 履歴

実行済みと失敗したコマンドを*dmrecord.sql*ファイルに書き込むよう自動 的にdmSQLに設定します。

### ファイル出力

全dmSQLに選択したテキストに自動的に出力させます。このコマンドを選択すると、名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます。

#### エコー

コマンドの結果、又はコマンドと結果を表示させます。

### **WORKDIR**

全外部ファイル操作を保存するディレクトリを選択します。

### 日付

日付データの出力/入力フォーマットを選択します。

### 時間

時間データの出力/入力フォーマットを選択します。

#### 表示の設定

現在の環境変数の設定をリストアップします。

### 設定の保存

Windowsホーム・ディレクトリにある*dmsqlenv.ini*ファイルに設定を保存します。

### ヘルプ・メニュー

ヘルプ・メニューには、dmSQLオンラインヘルプ、SQLリファレンス、 DBMasterのバージョン情報があります。

### DMSQLオンラインヘルプ

dmSQLオンラインヘルプを表示します。

### SQLリファレンス

SQL文と関数参照編を表示します。

### バージョン情報

アプリケーションライセンスと著作権に関する情報を表示します。

# 4.2 ツール・バー・コマンド

広く使用されるコマンドの多くは、dmSQLツールバーにあるボタンとドロ ップダウン・リストボックスでも利用可能です。

ボタン	説明	同等コマンド
接続	リモート・コンピュータ のクライアント/サーバ ーのデータベース、又は ローカル・コンピュータ のシングル・ユーザーの データベースに接続しま す。	Database Connect
切断	アクティブ・データベー スを切断します。	Database Disconnect
コマンド中止	現在、実行中のコマンド を中止します。	Command Abort Command
フェッチ中止	実行中のフェッチ・コマ ンドを取り消します。	Command Abort Fetch
履歴 (ボタンと ドロップダウ ン・リストボ ックス)	配置場所を決めて、現在 のセッションのコマンド に移動します。	なし

ボタン	説明	同等コマンド
接続ハンドル (ボタンとドロ ップダウン・ リストボック ス)	配置場所を決めて、現在 のセッションの接続に移 動します。	なし

# 索引

dmSQL 操作.3-1 概要 dmSQL, 2-1 環境変数 BLOB, 3-19, 3-24 エコー, 3-19, 3-27 時間、3-19、3-27 自動コミット, 3-19, 3-21 設定, 3-19 設定の表示.3-29 設定の保存.3-30 トランザクション末尾, 3-19, 3-21 日付、3-19、3-27 ファイル出力, 3-19, 3-26 フェッチ, 3-19, 3-23 ライン幅、3-19、3-24 履歴, 3-19, 3-25 ログイン・タイムアウト、3-19、3-22 ロック・タイムアウト. 3-19. 3-23 ワーキング・ディレクトリ、3-19、3-27 高速検索 使う,3-13 高度な設定コマンド、3-30

コマンド BLOBバックアップのモードの設定, 3-30 EXTNAMEのセット, 3-31 SYSINFOクリアのセット、3-32 コマンド中止.4-4 スクリプト中止, 4-4 中止, 3-6 ツール・バー.4-9 データのバックアップ・モードの設 定.3-31 データベース・モードの設定, 3-31 バックアップのモードの設定、3-30 表の一覧 4-4 フェッチ中止,4-4 ブラウズのモードの設定.3-30 フラッシュにセット、3-31 コマンド入力エリアのユーザー設定,3-13 コマンド履歴 閲覧, 3-8 コマンド入力エリア,2-3 スクリプト 実行, 3-4 中止. 3-7

ステータス・バー, 2-4	全て削除, 3-12
接続	全て選択, 3-12
表示, 3-4	貼り付け, 3-11
設定	編集を元に戻す, 3-12
BLOB, 4-6	テキストの編集, 3-10
エコー, 4-6	トランザクション
時間, 4-6	コミット,3-5
自動コミット, 4-6	ロールバック, 3-6
設定の保存, 4-6	表
トランザクション末尾, 4-6	一覧, 3-8
日付, 4-6	表示
表示の設定, 4-6	高速処理, 4-5
ファイル出力, 4-6	垂直スクロール・バー,4-5
フェッチ, 4-6	水平スクロール・バー, 4-5
ライン幅, 4-6	ステータス・バー, 4-5
履歴, 4-6	ツール・バー, 4-5
ログイン・タイムアウト,4-6	表示フォント
ロック・タイムアウト, 4-6	変更, 3-13
ワーキング・ディレクトリ,4-6	フェッチ
操作	中止, 3-7
データベース, 3-1	ヘルプ
タイトル・バー, 2-2	コマンド, 4-9
ツール・バー, 2-3	バージョン情報, 4-9
ツール・バー	編集
メニュー, 4-1	切り取り, 4-3
データベース, 3-1	コ ビ <sup>°</sup> ー, 4-3
終了,4-1	削除, 4-3
全て切断, 3-3	貼り付け, 4-3
接続, 3-2, 4-1	元に戻す, 4-3
切断, 3-3	メニュー・コマンド, 4-1
テキスト	メニュー・バー, 2-2
切り取り, 3-10	ユーザー設定
コピー, 3-10	コマンド入力エリア, 3-13
削除, 3-11	バックグラウンド通知, 3-18

表示カラー, 3-15

表示フォント, 3-13